

# 日本語教育センター通信

第4号

交換学生対象の選択日本語クラス「日本文化1・2」では、毎学期京都へフィールドトリップに行っています。今学期は12月10日に行いました。寒い中でしたが、デパ地下・錦市場・東福寺の見学と和菓子作り体験をしてきました。



## 交換学生「日本現代文化」クラス フィールドトリップ〜京都〜

文化1と文化2のクラスは一緒に京都に行きました。京都でデパ地下見学をしたり、観光したり、和菓子を作ったりしました。デパ地下見学は面白かったです。いろいろなおせち料理を見ました。とてもきれいなもつけども思いますが、おせち料理の値段が一番高いのは21万円でした！私はちよつとびっくりしました。デパ地下でたくさん和菓子も見ました。和菓子のデザインもきれいでした。午後から和菓子作りをするのが楽しみになりました！

### 京都フィールドトリップの感想 リム・サマンサ(シンガポール・南洋理工大学)

そして、私たちは甘春堂で和菓子を作りました。三つ作りました。「さざんか」と「かき」と「やぶこうじ」です。和菓子の先生が作り方を教えてくれたとき、易しいと思いましたが、とても難しかったです！でも、作り方は面白かったです。一番好きな和菓子作り方は「やぶこうじ」の作り方です。そして、一番好きな和菓子はさざんかです。私が作った和菓子はちよつときれいじゃありませんでした。でも、この京都フィールドトリップはとても面白かったです！この経験は珍しかったです！



<甘春堂でサマンサさんが作った和菓子「さざんか」>



<東福寺で友達と。右下がサマンサさん>

## 初等部訪問



### 初等部へ行った感想

デボン・エイミー  
(アメリカ・パシフィック大学)

12月2日、5日、6日の3日にかけて、交換学生が初等部を訪問しました。初等部設立年の2008年から行っている活動で、今年で4回目の実施です。日本語の授業の一環として、3年生の国際英語クラスを訪問し、英語と日本語を使ってコミュニケーションをしました。3年生の児童は英語で自己紹介や質問をし、交換学生は日本語で自分の国や町の紹介をしました。授業後は児童と一緒にの昼食です。関学の初等部には、「食育について家庭と学校とで学んでいくために、お弁当を家庭より持参する」というポリシーがあります。交換学生たちは児童が持参した様々な日本のお弁当を目にして、日本語だけでなく日本文化も学ぶことができました。

1月24日、27日にも交換学生の希望者と一緒に、初等部の国際英語のクラスを訪問しました。この2日間は英語を使ってフルーツバスケットやカードあてゲームなどを楽しみました。

交換学生の中には、将来JETプログラムで英語のアシスタント教員やコーディネーターとして日本に戻ってきたと考えている学生もいます。初等部での英語クラスに参加することは、異文化理解や日本語の練習になるだけでなく、彼らの将来にも役立つプログラムでもあります。初等部の協力をいけていく予定です。



先週の金曜日に日本語の授業で小学校へ行きました。小学校へ行く前に、私の国について作文を書いて覚えました。小学校へ到着したとき、私はとてもドキドキしました。私が小学校3年生のとき、大学生がこわかったけど、小学校3年生がこわかったとこわいと思いました。でも教室に入ったとき、子どもは私がおもしろいと思ってくれましたから、安心しました。小学生がともかわいかったです！子どもはいつも私の目をじっと見ました。ちよつとこわかったですが、もしかしたら、目が青くて、日本人の目と違うからかもしれません。さいしょ、小学校へ行くかなければならないと聞いたとき、行ってよかったです。でも、

### イェン・ミヤウチン(台湾) (台湾・東海大学)

先週の金曜日、関学の初等部に行きました。ちよつと大変な日でした。朝、家を出てJRに乗るとき時間に間に合わなかったため、宝塚南口駅に集まる時間に遅刻しました。実は、昨夜寝る前に発表する作文がなくなっていたのがわかりました。それで夜遅くまで新しい作文を書かなければなりません。それは、それでも、小学生に会うのは楽しかったです。小学校のキャンパスもとてもきれいだし、小学生もかわいかったです。初めに小学生と話したときは非常に緊張しました。でも、あとで小学生はたくさんおもしろい質問をしましたから、私はずつと笑って、ストレスが全部なくなりました。3限がありますから、早く学院へ帰らなければならないのは残念でした。

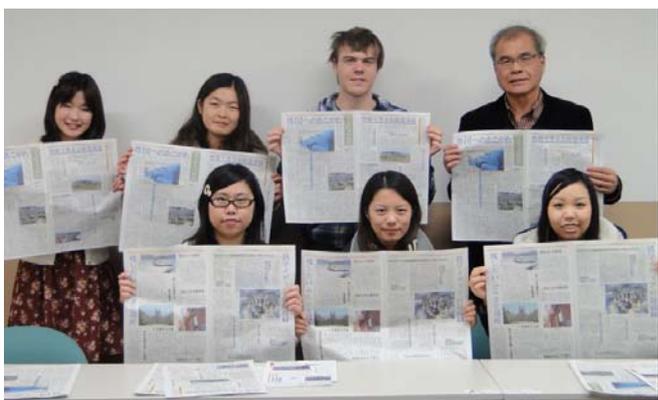


# 新規開講 選択日本語科目

2011年度秋学期から、「日本語総合演習A」「日本語総合演習B」を新たに開講しました。総合演習Aは新聞の制作、総合演習Bは雑誌(リーフレット)の制作を行うクラスです。これまで総合政策学部の日本語Vで同様のクラスが開講されてきました。今回のクラスは、上ヶ原キャンパスで、交換学生と学部留学生在が同時に履修できる科目です。単に日本語で記事を書くだけではなく、企画から取材、原稿執筆、校正まですべて授業で行います。また、教務課共通教育センターのLA(ラーニングアシスタント)制度も取り入れ、日本人学生のLAが授業に参加しました。授業へのサポート・参加をすることで、留学生にも、LAをした学生にも学ぶところが多いのがこのクラスの特徴です。

## 日本語総合演習A<平野 幸夫先生>

◎国難の年に得た教訓を文章で表現  
来日してまだ半年も経たない交換留学生がいきなり日本語の新聞記事を書けるのだろうか。半信半疑でスタートした総合日本語演習A・新聞制作クラスの授業だったが、学生たちは見事、学内外に誇



△わあ、完成！できあがった新聞を持って、みんなでハテリ！  
上段右端が平野先生

つて良い「異文化交流新聞」を作ってくれた。

参加学生はオーストラリアからの男子学生と中国からの女子学生の3人に加え、本学のサポーターの女子学生3人。それぞれ、生い立ちも価値観も違い、何を共通のテーマにするか迷ったが、第1面では、誰もが持つ「異国への憧憬」を披露してもらった。続いて「残したいふるさとの遺産」を紹介、「震災関連のニュースが集まる新聞社の編集局での感想を述べてもらった。特に第4面では、戦後最大の国難を迎えた日本がどう彼らに映ったのか表現してもらおうと、「福島原発事故」の深層を描いたドキュメンタリー放送を見てもらった。放射線研究者の献身的な活動と政府対応の遅れを「国民がいて、国があり、国家組織や役人が必要になることを教えてくれた」と書いた留学生もいた。全員がこのテーマを設定した本意をよく汲み取ってくれたと思える記事を書いて、確かな手応えを感じた。

授業の最終日には、十日戎でにぎわい、上方文化の香りが漂う大阪・天満の町を一緒に歩いた。彼らは新たな年に大震災からの再生を願って祈る人たちに思いを重ねてくれたはずだ。

## 日本語総合演習B<八木 延佳先生>

自分の文章や写真が印刷物になる！こんな経験はめったにありませんよ。そんな感動を体験するのが、「日本語総合演習B」です。

制作するのは「留学生リーフレット」です。キャンパスライフを充実させる記事を企画・編集して、皆さんにお届けします。

今回は創刊号(12/20発行)で、関学生のファッションチェック、皆が知っているたこ焼きおじさんインタビュー、留学生と日本人学生による有馬温泉体験記などバラエティーに富んだ内容です。

もちろん、これは日本語の授業です。編集会議、取材、インタビューで相手から話を聞き出す勉強をしてもらい、そして、誰もが読んで理解できて、面白く書く訓練をします。この「面白く」がポイントです。学生のレポートは仕事なので先生は読んでくれますが、配布されるリーフレットは面白くなければ誰も手にとって読んでくれません。そのことを実践的に学んでもらいます。

それから、印刷所見学や入稿作業で営業担当者との交渉を通して、社会人としての先取りを体験できることも、この授業の面白いところですよ。

### <川端香葉(文学部4年)>

留学生の日本語能力の高さに本当に驚かされました。新聞の記事を書くことは日本人の私たちにとっても難しいもので、それを私たちと同じレベルでこなした留学生の皆は本当にすごいと思いました。外国語を勉強する私にとっては良い刺激にもなりました。

### <杉谷小百合(法学部3年)>

日本語パートナーとは違う形で留学生をサポートし、交流することができました。留学生とともにサポーターである私たちも一緒に新聞を作成し、留学生や他の日本人学生の考えなどを共有でき、得難い貴重な経験になりました。

### <井関冨也(経済学部1年)>

日本語演習という授業では、交換学生と、交流し、それぞれの文化を知るだけでなく、日本文化をあたためて、考える機会になりました。また、新聞を作るという普通では体験できないことも経験でき、とても貴重な時間を過ごせたと感じます。

### <服部静香(文学部2年)>

私は、日本人と授業の内容は、リーフレットをみながら力を合わせて一から作り上げるというものだったので、授業中には留学生と意見を交換しあったり印刷工場見学に行き、休みの日にはみんなで記事の取材に行ったりと大変充実していました。留学生・LAの皆が同じ目標をもって協力し合うことで、授業がより内容の濃いものになりましたし、何より授業を楽しんでサポートすることができました。

### <小林有沙(商学部2年)>

この授業では、留学生リーフレットをメンバー9人で作り上げるという今まで経験したことのないものでした。印刷物という、日本人でも難しい作業を留学生達とするのは、大変なこと、反響点もあったと思います。実際に、完成したリーフレットを見て、みんなの思いが詰まった物になっていたのでとても嬉しかったです。留学生達とも仲良くなることのできたので、本当に素敵な経験になりました。

## LAの感想

### <森澤実里(文学部1年)>

LAというのが初めてだったのではじめは不安でしたが、そんな不安はすぐなくなりました。今はあつという間に終わってしまったと感じています。特にみんなでいった工場見学、取材ではとても有意義な時間を過ごすことができました。

LAのみなさん、ご協力ありがとうございました！



発行人: 関西学院大学  
日本語教育センター  
発行日: 2012年2月6日

※今回の日本語クイズはお休みします。



<わあ、いいとリーフレットの出来栄を確認。どの記事もいいね！右奥が八木先生>